

こんにちは！ 地域おこし協力隊 です

※地域おこし協力隊とは、人口減少等の課題を抱える地方の自治体が、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図ることを目的として設立された制度です。

臼杵市では、現在6名の協力隊が移住し、地域活動に関わっています。

こんにちは。新緑が眩しい季節となりましたが、**地域おこし協力隊（以下、協力隊）**にも新しい仲間が加わりました！今回は、4月に着任した隊員2名を紹介します。

協力隊は前号でご紹介した4名の「一般隊員」に加え、今年より、野津地域を中心として有機農業推進のためのブランド推進や販路拡大、集荷と搬送、模擬営農などを行う「有機農業隊員」2名を採用しました。ぜひ顔と名前を覚えてくださいね。

山崎さんは高校まで大分で暮らし、卒業後は都市部で音楽や舞台関係の仕事をしたり、飲食店で働いていました。料理をするうちに野菜に興味を持ち、家庭菜園にチャレンジ。その後、結婚を機に農業に関する仕事にシフトしていきました。

まずは大学で植物生理学を学び、次にコミュニティFMの番組ディレクター兼リポーターとして農家さんや直売所に関する週一番組を制作。次に、農業の公共職業訓練学校にて有機農業の基礎や営農指針などを習得。さらに社会福祉施設の1haの圃場での3年間の野菜栽培の経験を経て、臼杵の協力隊となりました。現在は奥さんと3歳のお子さんと3人で暮らしています。

実は山崎さんのお父さんは、八町大路にある「お福」の和菓子職人さん。いつか、自分の作った農産物を使った和菓子を開発し、臼杵の名産品にするのが目標だそうです。



やまさき まこと

山崎 誠

- ・41歳
- ・大阪府より移住
- ・住まいは宮原



つちもと としき
槌本 俊貴

- ・24歳
- ・大阪府より移住
- ・住まいは野津市



槌本さんは大阪府箕面市の出身。大学時代に食生活が荒れていて、その反動もあり食に関心を持ったとのこと（どのくらい荒れていたのか気になります）。ある有機農家さんの野菜を食べた時に感動を覚え、有機農業がめざすものや見ている世界に憧れると同時に、この仕事をしたいと思い始めたそうです。

そして有機農業について調べるうちに出会ったのが、臼杵が舞台となった大林千茱萸監督のドキュメンタリー映画「100年ごはん」。臼杵の雰囲気や有機農業の取り組みを知るため、実際に来臼したとき、協力隊の募集を知りました。

協力隊になるまでは農業の知識や経験が全くなかったという槌本さん。「まっさらな気持ちで、どんな些細なことでも感じ取って吸収したい。」と意気込んでいます。